

遺伝情報を用いた土壌線虫の迅速診断法を開発しています

農作物に被害を及ぼす土壌線虫は見分け方が難しい上、診断に数日かかるため、生産現場では線虫を確認しないで農薬による土壌消毒が行いがちです。そこで、不必要な農薬を削減するため、農林センターでは線虫の遺伝情報（DNA）を土壌から抽出し、消毒の必要性を数時間で診断する技術を東京農工大学等と共同開発しています。

8月20、21日に関係農業改良普及センター・研究機関とともに、丹後国営開発農地19か所でダイコン播種前の土壌を採取しました。

今後は、採取した土壌の線虫数を測定するとともに、秋のダイコン収穫時に線虫数とダイコンの被害との関係を明らかにします。

土壌線虫：植物の根に寄生し、根にコブを作ったり、根を腐らせたりします。



ダイコン播種予定地（前作の葉タバコ収穫終了時）における土壌の採取